

シニア犬のケアと介護

Happy Dog Lifeを考える

小林 祥子 (犬の整体研究所) / 横山 恵理 (キュティア老犬クリニック)

第5回 犬に対して整体が効果を発揮するメカニズム③

前回(5月号)は「犬はどう動いて、どこの筋肉が使われているのか」という点を解説しました。今回はそれを念頭においた上で、ゆがみの事例を動画を交えて

ご紹介しながら、筋肉の使い方についてより深く解説していきます。

ゆがみの事例

肩甲骨が立つ

肩甲骨は回転して動きます。前肢が前に出る際の動きでは上部は後引、下部は後引、前肢が後ろに蹴り出される動きでは上部は前引、下部は後引となります(図1)。またそれぞれの動きには図2にあるように、

上部下部にそれぞれ前引、後引と2種類ずつの筋肉が関わり、お互いに引っ張り合いながら肩甲骨を回転させています(図2)。

犬の進行方向は必ず「頭側」と決まっているので、前から後ろへ蹴り出す際には体重を乗せますが、後ろから前に引き出す動きの際には体重が乗っていません。

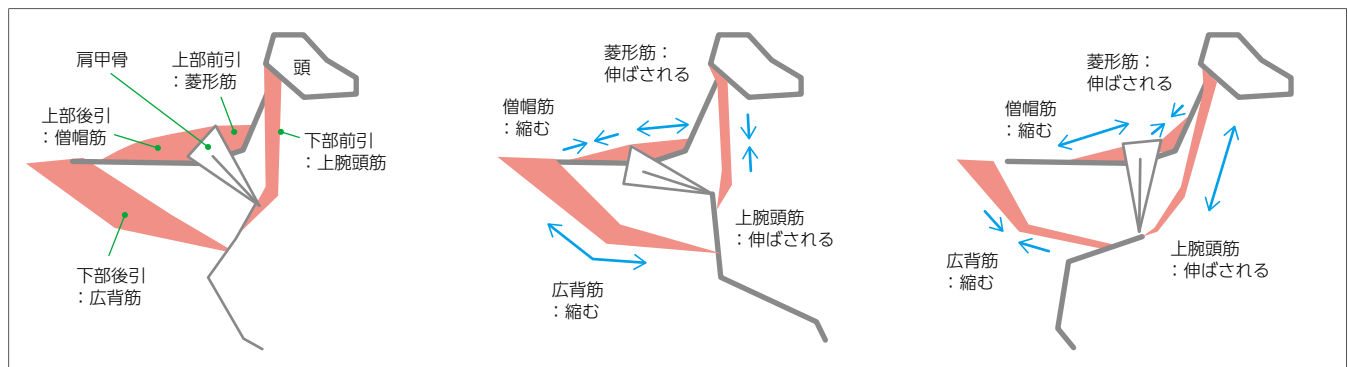


図1. 肩甲骨が回転して動く際の筋肉の動き。

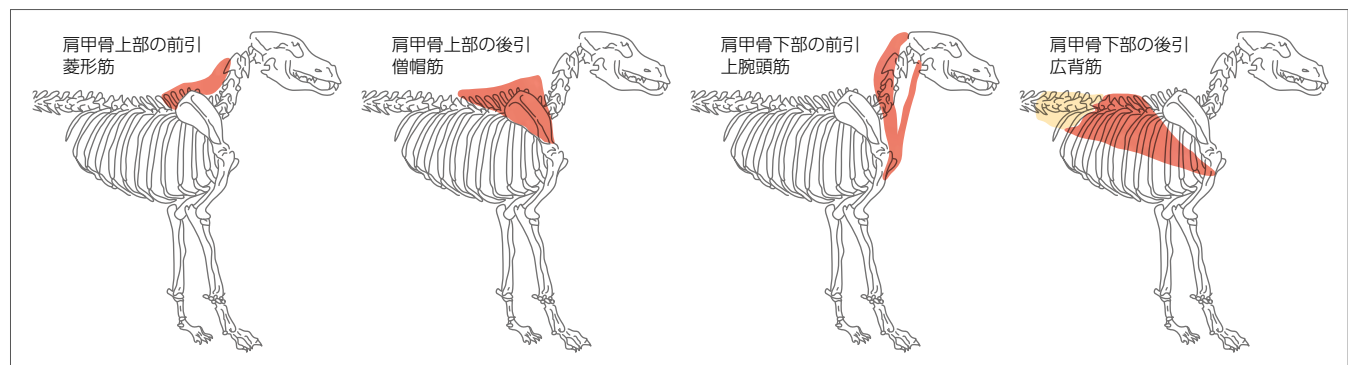


図2. 上部下部にそれぞれ前引、後引と2種類ずつの筋肉が関わり、お互いに引っ張り合いながら肩甲骨を回転させている。